

成と課題は何か。(吉江)

交通量が増え交通渋滞が予想される。当面田川に架かる上田川橋の架け替えに、本年度測量設計に着手している。継続中の堰西えびの子通線、国道19号四車線化、広丘東線など、広丘地区の交通基盤整備に特に力を入れている。

◆開発拠点誘致と企業支援策は

企業誘致と起業家支援施設は、市内製造業者への支援につながるのか。(鈴木)

開発拠点としての企業を誘致することで、同じ施設内の支援施設に集まる起業家にノウハウを提供できる。それが誘致の条件でもある。高い技術力で自立した企業が育つことが重要。

監査機能の充実強化を

◆財務監査中心から行政監査へ

行政事務の適正化のため監査業務を、財務監査中心から行政監査にまで大幅に拡大するには、監査委員の常勤化または職務時間の大幅な増加と、事務局体制を強化する必

要があるのでは。(武居)

職務時間の増加、事務局体制化、さらに外部の専門アドバイザーの活用などを監査委員と相談して進める。

◆人事課設置は妥当か

人事課を新設して日常の業務怠慢や口頭注意など細かい失態も記録するデータを作成し人事管理をするようだが運用によっては人間関係を破壊し不毛な職場をつくることになるのではないかと。(井野)

◆戸籍偽造事件に対する考えは

戸籍法第一条で戸籍事務は市長が管掌することが明記されている。戸籍原本偽造事件は現在捜査中とのことだが全容が明らかになった時点で戸籍法に基づき責任を明確にすべきではないか。(井野)

◆そのつもりである。

◆大増税に対し市の助成策は

国の増税に連動し、市税や国保税、介護保険料も上がるし、収入が今までと同じでも、所得とみなす範囲が拡大されるので、所得を基準とする補助や減免の対象から外れ負担の増加と、支援の減少が起こり、多い人で40〜50万円

にもなる。状況をよく分析し緊急に対策を立てないと、低所得の高齢者を中心に、市民の生活が崩壊する。(武居)

市の補助制度などを総見直して、対応していく。

◆団塊の世代2007年問題

団塊世代の職員退職はどのように対応するか。(吉江)

平成19年度から21年度間の退職該当者53名余で、退職金は13億円余を見込んでいる。財政調整基金への積立に務め、投資的事業や市民福祉に影響のないようにしたい。

◆職員組合との交渉に市長の出席を

市職員組合との真摯な交渉をする中から信頼関係をより強固なものにするため、今後はその席に市長も出席すべきではないか。(井野)

◆その通りと考える。

◆ワイナリーフェス来年以降も継続へ

塩尻ワイナリーフェスタについての評価は。(永田)

予想以上の参加者があり経済効果として、約300万円の売上があった。来年以降も継続していきたい。

◆創作オペラはとりやめに

2月に予定されている信濃の国大合唱フェスティバル

の内容は。(永田)

歌と音楽劇の2部構成で最後に信濃の国を全員で合唱する。創作オペラは取りやめとした。

安心して暮らせる福祉のまちづくりを

◆乳幼児医療費の窓口無料化は

乳幼児医療費の窓口無料化で県との連携状況は。(鈴木)

県市長会は、制度見直しとしては、乳幼児医療費の県の補助対象年齢拡大が先に行われるべきとしている。制度改正は「福祉医療のあり方検討委員会」で検討されるべき。実施時には、健保の付加給付停止、国保の国庫負担金減額などがあり、財政負担が拡大する。市単独ではできない。

◆介護予防事業(一次予防)に

18年4月より実施される介護予防事業について、一次予防に対する、具体的な方策や計画は。(塩原)

活動的な状態にある一般高齢者を対象に、生活機能の維持向上に向けた一次予防の



湖上に群れる渡り鳥 (みどり湖)



第一期工事が完成した床尾団地



賑わったワイナリーフェスタ2005